

(幸田町)

市町村の 基本情報	学校数	小学校6校、中学校3校		
	地域学校協働活動推進員等の配置状況	統括的な地域学校協働活動推進員	0人	
		地域学校協働活動推進員	1人	
	状況	統括コーディネーター	0人	
		地域コーディネーター	0人	
	CS及び地域学校協働本部設置状況	CSを導入している学校数	小6校	中3校
地域学校協働本部がカバーしている学校数		小1校	中0校	



(活動の実際)

<活動目的>

地域全体で子供たちの学びや成長を支えるとともに「学校を核とした地域づくり」を目指し、地域・家庭・学校で子供たちを見て育てる“共育”により、子供たちの健やかな成長と地域の活性化を共に目指す。

<活動内容>

- ・ 登下校の見守り活動
- ・ 校内清掃
→児童が清掃を行わない日等に来校して清掃をする。
- ・ 校外学習時の引率
- ・ 学校敷地内の草刈り・剪定
- ・ 本の修理
- ・ プール授業時の監視補助
- ・ 田植え等体験授業の講師
- ・ 親子パン教室開催
- ・ 夏休みの学習会開催
→地域の絵の得意な人や大学生を先生に
- ・ 読み聞かせ活動
- ・ 学校花壇の手入れ



校内清掃



本の修理

(◎成果と●課題)

- ◎担任の教職員にアンケートをとったところ、今まで教職員が調整していたことを地域学校協働活動推進員に依頼することで負担の軽減につながったと回答する職員がほとんどであった。
- ◎学校支援ボランティアがいることで、より児童へ目を向けることができるようになった。
- 地域学校協働活動推進員が配置されたことのメリットは、児童の安全面や教員の負担減、地域との連携の面等非常に大きいため、各校にあったやり方での設置を推進する必要がある。
- 学校内でもボランティアを依頼することが多い学年とそうでない学年がある。低学年等、安全面で人が必要になり、成長段階に差があるのは当然なので、それを踏まえた活動の展開が必要である。
- 今後の活動を持続可能にしていくために物理的、経済的に担保が必要である。

(関係者の声)

- ・ 教員とは違う視点で子供と関わってくださるので、子供も学習が進む。(教職員)
- ・ 子供にとって知的好奇心や身近な人の声学びにつながる。(教職員)
- ・ 元気な子供たちと関わることでこちらも力をもらうことができる。(ボランティア)